東京藝術大学美術学部絵画科

日本画

2026

Tokyo University of the Arts
Japanese Painting

制作・発行　2025年度　東京藝術大学日本画研究室

教員

教授　吉村　誠司
　　植田　一穂
　　海老　洋
　　宮北　千織
　　髙島　圭史
准教授　石原　孟

助教　長澤　耕平

テクニカル
インストラクター
　　川﨑　麻央
　　杉山　佳
　　岩谷　晃太

教育研究助手
　　菊池　玲生
　　齋藤　愛未
　　大嶋　直哉
　　勝又　優
　　島田　滋
　　宇野　七穂
　　岡路　貴理

※2025年現在

美術学部 アドミッションポリシー

美術学部では主体的かつ継続的に技能や表現力を向上させる努力とともに、創造性を高めるための幅広い分野の学修を継続できる人材を求めています。ディプロマ・ポリシーに適う人材を選抜するために、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を行っています。大学入学共通テストにおいては、入学後に必要とされる知識のレベルを判定し、個別学力検査においては、入学後の専門教育を行う上で必要な能力を審査する実技試験等を実施しています。この個別学力検査では、技能に加え創造性や表現力等を審査しますが、実施にあたっては各科および専攻の特性を最大限に尊重した内容としています。

(令和７年度入試から)

日本画専攻の入試について

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻の入試選抜は、大学入学共通テスト、本学が実施する実技試験、出身学校長が作成した調査書の各資料を総合的に判断し合否を判定します。

個別学力検査（実技試験）は一次試験として「鉛筆素描」を行い、一次入試合格者のみに、二次試験「着彩写生」を課します。

詳細については今後発行する『東京藝術大学学生募集要項』、または藝大 HP（www.geidai.ac.jp）の「入試情報サイト」を確認してください。

日本画専攻 入試の出題について

●学部入試 第一次実技試験　出題（12時間）

二日間で鉛筆素描一枚を完成させなさい。

1日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30(昼食時間 12:00〜12:30)
2日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30(昼食時間 12:00〜12:30)

●石膏像（パジャント）×1

基礎的な観察力や描写力、構成力のレベルを判定するための出題である。
台座の上に配置した１体の石膏像（パジャント）をモチーフとして、鉛筆素描する課題とした。モチーフの形を正確に捉え、適切に描写する力を評価する。また、形を空間的に認識し、構図や明暗の諧調といった表現に反映できているかといった点も評価の対象とした。

※出題内容は2025年度のものです。

●学部入試 第二次実技試験　出題（12時間）

以下、すべてのモチーフを構成して着彩写生すること。

1日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30(昼食時間 12:00〜12:30)
2日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30(昼食時間 12:00〜12:30)

●ハクサイ 1/4×1　（ラップは外し、描かないこと）
●カボチャ 1/4×1　（ラップは外し、描かないこと）
●ブロッコリー×1　●ニンジン×1　●イチゴ×3　●クルミ×5
●パプリカ（黄）×1　●パプリカ（赤）×1　●リボン×1
●新聞紙×1　●皿×1　●アルミホイル×1　●ペットボトル×1

観察力や描写力、構成力や色彩感覚などを含めた総合的な表現力のレベルを判定するための出題である。野菜や果物、器物等をモチーフとして、各自が自由に卓上で構成して着彩写生する課題とした。
それぞれのモチーフがもつ色や形、サイズ、質感等の特徴を活かして構成し、モチーフの実感や違いを描き分けて、絵画的に表現しようとする点を評価の基準とする。また、色数の多いモチーフを色味豊かにバランスよく表現しているかといった色彩感覚も評価の対象とした。

※出題内容は2025年度のものです。

制作風景

絵具講義（1年）

上：絵因果経模写（2 年）

下：植物（菊）

カリキュラムについて

日本画専攻は作家及び美術に関わる諸分野での指導的人材の養成を目標としています。これを実現するために本専攻における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国の美術の伝統と精神を継承し、これを発展させることを主軸に捉えています。

主な授業科目としては人物・風景・静物・動植物画、版画・壁画の制作、古典模写、人物素描、材料研究、古美術研究旅行、写生旅行等があり、課題別に定められた期間で履修していきます。

学部においては、1・2年次を基礎課程と位置づけ、伝統的な技法の習得と造形・表現力を養うことを目指します。3年次以降の発展課程では、自由課題を主に前述の事項をさらに前進させ、最終の 4 年次では集大成となる大作を制作し卒業作品展で発表します。

日本画専攻 年間カリキュラム

【前期】

	4月	5月	6月	7月	
1年	植物（百合）	植物（菊）	随身庭騎絵巻　模写	風景制作 50号	夏季休業
2年	絵因果経 模写	東北写生旅行	風景制作 50号	人物制作 50号	
3年	版画・壁画集中講義	人物制作 50号	風景制作 50号	自由制作 50号	
4年	自由制作 100号程度	自画像 15号・自由制作 100号程度		自由制作100号以上	

【後期】

	10月	11月	12月		1月	
1年	人物制作 50号	静物制作 30号	動物制作 50号	冬季休業	自画像(絹本) 15号	
2年	源氏物語絵巻 模写	自由制作 50号	風景制作(建造物) 50号		自由制作(絹本) 30号程度	
3年	自由制作	古美術研究旅行	自由制作		自由制作	
4年	卒業制作				自由制作	卒業作品展

【材料講義】

絵具講義
筆講義
和紙講義
絹本講義
箔講義
裏打ち講義（模写）
裏打ち講義（絹本）
裏打ち講義（150号）
絵画講義
日本画材料講義

アトリエ風景

小下図研究会（3年）

古美術研究旅行（3年）

箔講義（2年）

裏打ち講義（4年）

東北写生旅行（2年）

卒業作品展（4年）

学生からのメッセージ
STUDENT's VOICE

学部 4 年在学
石川 廉太

大学生活は、現役の作家である先生方から日本画の伝統的な技法であったり、絵画表現の知識を学んでいます。また、日本画だけでなく様々な絵画技法、美術史なども学び、日々の課題と向き合っています。

学校生活において、授業や先生方からの指導以外にも、同じ教室で共に励んでいる学友との時間はここでしか得ることの出来ない貴重な時間だと感じています。

私の学友は、それぞれが異なる価値観や美意識を持っていて、制作中の対話では、自分には無い視点の意見を聞くとこができ、自分の絵をより多面的に捉えることが出来ます。

このように、先生方だけでなく同じ志を持つ学友もまた私自身の成長のための支えとなるのです。そんな環境で制作できることに感謝しながら自分と向き合い、学友と切磋琢磨して制作を続けていきたいと思います。

「さくらんぼ畑」 F100 号　2025 年　自由課題

「瓢箪棚」 F80 号　2024 年　自由課題

大学の課題制作では、日本画の画材と伝統的なものの見方を学びながら、充実した制作となるように心がけています。学部 3 年の自由制作では、自分の弱点と強みに向き合いながら、魅力を見つけて伸ばす事を目標に取り組みました。自分が好きな画家の作品や現代の日本画と関連性の高い絵画の作りがどうなっているのかを探りながら、どうすれば描こうとしている絵が魅力的になるのか試行錯誤する過程はとても苦しいですが、制作の中で何よりも助けとなるのは画面に夢中になれる感覚であるという事に気づけたことで作品も自分も成長できたと感じます。

11 月にある古美術研究旅行では、奈良・京都の文化財を間近で鑑賞する貴重な機会となりました。作り手の意匠を詳細に観察し、日本古来の精神や美意識を体感することができます。

大学生活での経験が今の自分を形作っており、一つ一つが絵にとって重要なものになっていると感じています。

学部 4 年在学
石井 詩織

大学生活は絵と向き合うことに費やす日々でとても充実した時間です。大学には自分と同じように絵と真剣に向き合うクラスメイトがいます。一人一人が自分の考えを持ち、悩み、自分なりの表現を探しながら作品と向き合っているので、アトリエで制作しているだけで刺激をもらえます。時には絵についての考えを議論するようなこともあり、自分にはなかった発想をもらえたり、自分の考えを言語化することで自分が何を考えていたのか明快になることもあります。自分と同じくらいの年齢で、同じ課題を同じ画材を使いながら制作するクラスメイトが 20 人近くいる環境は、今後の人生で体験することはできないと思います。大学で学べる時間は短いからこそ、絵と向き合う時間を大切にして様々なことに挑戦し、切磋琢磨しながら自分の表現を見つけていきたいです。

学部 3 年在学
中江 隼大

「翠の街」 F80号　2025年　風景制作 (建造物)

尊敬するクラスメイトたちに囲まれて、絵を描く日々は非常に有意義で、教室に並ぶ 26 枚の絵が毎日完成に近づいていく様子は、いつも私を奮い立たせてくれました。

授業では、日本画材に関する講義だけでなく、古美術研究旅行で、先生方からの詳細な解説を受けながら京都や奈良の寺社仏閣を巡りました。茶道の特別講義では貴重な茶器を観たり、茶席の作法を学んだりしました。このような貴重な体験をさせていただけて、絵画に専念できる環境に、深く感謝しています。これからも先生方の大きな背中を追いかけて、日本画の研究を続けます。

卒業制作は、古美術研究旅行中に偶然訪れた銭湯のロッカーに魅了され、題材としました。その後の取材を通じて、幼い頃に父親とよく行った銭湯が既に無いことを知ったり、モデルにした奈良の銭湯が閉業したことを知らされたりしたことで、無くなりつつある銭湯文化への名残惜しさを強く感じるようになりました。この絵にはそのような思いを込めることができたと感じています。

2024 年度卒業
今本 章

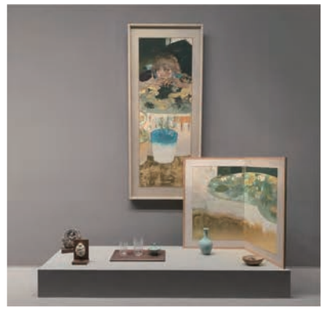
「銭湯に行った日」 F150号　2025年　卒業制作

進路について

学部卒業後、研究を深めるため大学院修士課程へ進学する者、教職に就く者、就職する者、様々です。

作家として個展、公募展、グループ展等で自作品を発表し、美術界の第一線で活躍している者、小中高等学校、国内外の美術・教育系大学の教員、美術予備校などの講師に採用される者も多数います。また近年、国費・私費留学生として海外へ留学する者も多くなっています。

①



②

③

①「Philosophy」 2150×1450mm
②企画展展示風景（泉屋博古館）
③個展展示風景（銀座三越）

日本画家
倉敷芸術科学大学 准教授
澁澤 星

日本画の制作活動をしながら、大学で教員をしています。

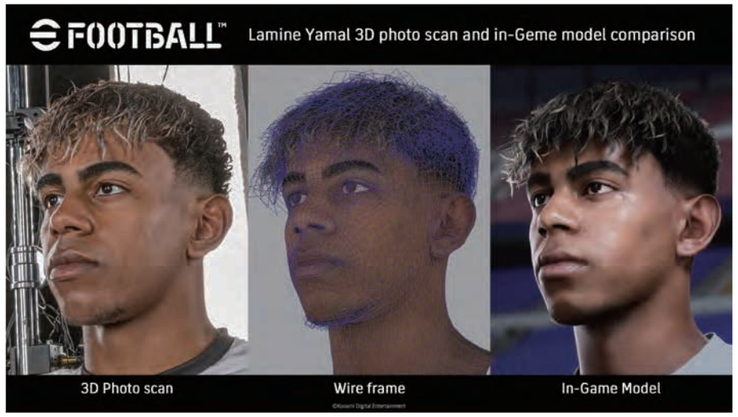
様々な文化が混ざり合った様子を好んで描くことが多く、近年は文化の多様性、それらが内包する時間及び時代性とイメージとを融合する形で表現しようと、制作発表を行っています。東京、西日本にて継続的に個展を開催する他、国内外のアートフェアに出品しています。

大学では日本画コースの授業、芸術学部の学生が学年やコースを縦横断して合同でプロジェクトを行う授業、他にも教養の授業なども担当しています。学生時代や助手時代に学んだことを復習し、さらに勉強しないと人には教えられないので、自分自身にとっても良い学びになっています。

今後益々のグローバル化や、効率性・経済性のみを中心に置いた新自由主義経済の限界から、ローカルとグローバルの新たなバランスが求められる中、日本絵画の存続と併せて独自性を守ることのバランスが研究課題です。

そうした試行錯誤を通して、自分自身の絵画表現も深めていきたいと考えています。

卒業生からのメッセージ
Voices of Graduates



私は学部・大学院を卒業後、株式会社コナミデジタルエンタテインメントに新卒で入社しました。現在はefootball™制作チームに所属し、サッカー選手の顔を3DCGで制作する仕事をしています。顔の特徴を正しく捉え、立体把握・肌の質感・髪の毛など、細部まで観察力が必要とされるため、試行錯誤の連続ですが、自分が制作した選手がゲームに搭載されるのは、何度経験しても嬉しいです。

大学時代は、個性豊かなクラスメイト達の表現方法や考え方の違いに直に触れ、また、作品を作ることに対して意識の高い学生が多くとても恵まれた環境でした。その中で培ってきた、物の捉え方・表現へのこだわり・作品に対する姿勢など、3DCGと日本画、分野は違っても共通して大切なことが沢山あります。会社に入って制作することは、個人制作では得られなかった経験が多くあり、新しい自分を発見できる場所だと思います。

一度きりの人生なので、後悔の無いように絵と向き合ってくださいね。

株式会社コナミデジタル
エンタテインメント
川口 富裕実

卒業後の主な進路

日本画家
アーティスト

中学校教諭
高等学校教諭
専門学校講師
予備校講師
大学教員
学芸員

進学
東京藝術大学大学院

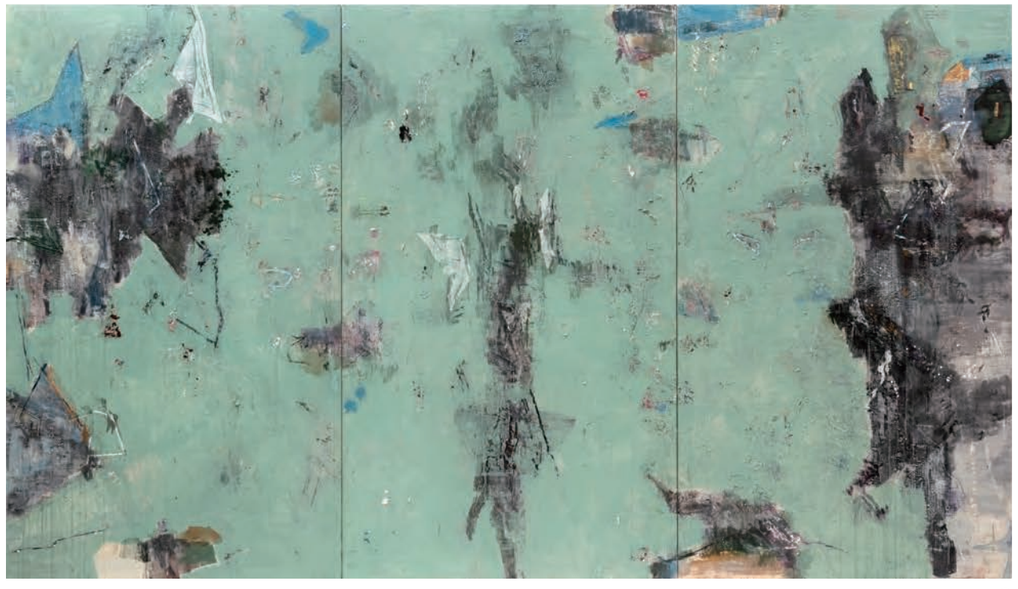
就職
オリエンタルランド
海洋堂
コナミ
コーエーテクモ
Cydesignation
スクウェア・エニックス
SEGA
SONY
宝塚舞台
DeNA
TOPPAN
任天堂
バンダイナムコフィルムワークス
フロムソフトウエア
ポリフォニー・デジタル

出版社
テレビ局員
漫画家
イラストレーター

ほか

①

②



③

①「Space Park」 909×455mm　2022 年
②「イメージの本」 M50 号　2024 年
③「East Park」 1800×3200mm　2021 年

教員の紹介
Introduction of Professors

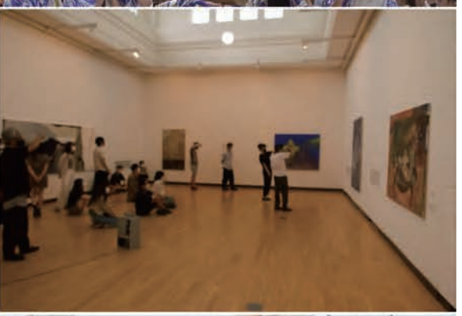
准教授
石原 孟

目の前の対象を絵によって表現したいと思う気持ちや、線を引く喜び、色を塗る喜びは創作の基本的な出発ではないでしょうか。

私自身の日本画科進学への選択を思い出してみても、「絵を描きたい」という気持ちが先ずありました。その延長で今日まで創作を行ってきたと言えそうです。創作の過程では難しく考えてしまうこともありますが、一先ず描いてみることで乗り越えられることがあります。

日本画専攻では今でも「絵を描く」カリキュラムを続けており、私が学生の時から大きく変わっていません。一見単純なようですが、自分の考えや想いを自由に表現するための基礎的な手法を学ぶことが軸となり絵画表現の意識を大きく広げて行こうとするものです。

日本画専攻は「伝統を基盤とした現代絵画の創造」を掲げています。10 年後、20 年後の日本画はきっと今とは違う日本画になっているでしょう。大学では私たち教員も学生と共に、日々研究を続けています。これからの日本画を一緒に作り上げて行ける新入生に出会えることを楽しみにしています。



版画・壁画実習（3年）
藝祭
一研展（大学院日本画第一研究室）
素描展（大学院日本画第二研究室）
奈良国立博物館 特別観覧（大学院日本画第三研究室）
日本画材　　卒業作品展